

阿弥陀林由来

これは、私の母がここで生まれた人であったから、先祖から申し継がれてきたような状況であったんだすべなあ。その話によるとねえ、ある時期に台風があつて、そうして、八幡神社という、もともとこれは私らの氏神様であつたそうだけれども、そこに大きなケヤキがあつて、そこにその、阿弥陀如来様が林に引つかかつてあつたと。それが由来で、それで阿弥陀林と聞かされてあつたけどね。

ここには正式な字名として阿弥陀林という地名はないです。ただこの電柱の表示が、例えば一号、二号と番号を打っている。それが、東北電力では、阿弥陀林の何号とか、と使っている。

ところでその阿弥陀如来様が、元の神社っていうのが鍵もかけなくてね、自由に出入りするような状況になつておつたもんで、乞食なんか来て、如来様を持っていかれたと。そしてその如来様が、能代のそんなに大きくないお寺に、荷八田の如来様があると、一昨年亡くなつた荷八田の三浦さんという人がね、どっからか聞いてきたのか、聞いてきて、そのお寺さんに行つて見てきたという話を聞いております。わたしはまだ、機会もなかつたし、行つてないんですけど。

大高俊夫(荷八田・昭和5年生・65歳)

(解説)

この地域の行政地名は、大字荷八田で、小字の中にも「阿弥陀林」はない。ここにあげた伝説によって、地区のひとびとがそう呼び習わし、地図でも荷八田と書かずに阿弥陀林と書いている。通称の方が通りがいい。伝説が現実生きている例である。